

京都市立芸術大学及び京都市立銅駝美術工芸高等学校移転整備 基本設計

1	付近見取図, 専攻配置概要	p.1
2	平面計画	p.2-7
3	断面計画	p.8
4	環境への配慮, 安心・安全への配慮	p.9
5	デザインイメージ	p.10-17

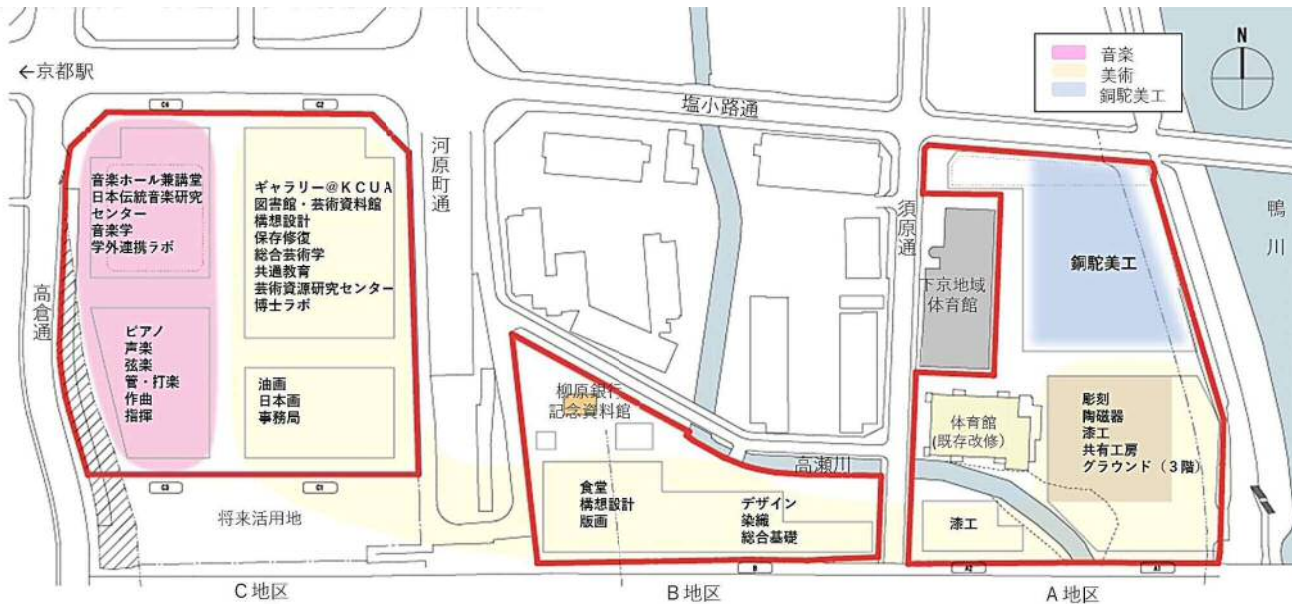
1 付近見取図・専攻配置概要



地区 (名称)	京都駅側の地区 (C地区)	中間の地区 (B地区)	鴨川沿いの地区 (A地区)	
種別	京都芸大	京都芸大	京都芸大	銅駝美工
敷地面積(m ²)	約15,900	約6,000	約12,700	
延床面積(m ²)	約48,700	約10,000	約9,300	約9,100
	合計：約77,100			
階数	地上7階 地下1階	地上5階	地上3階	地上4階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造

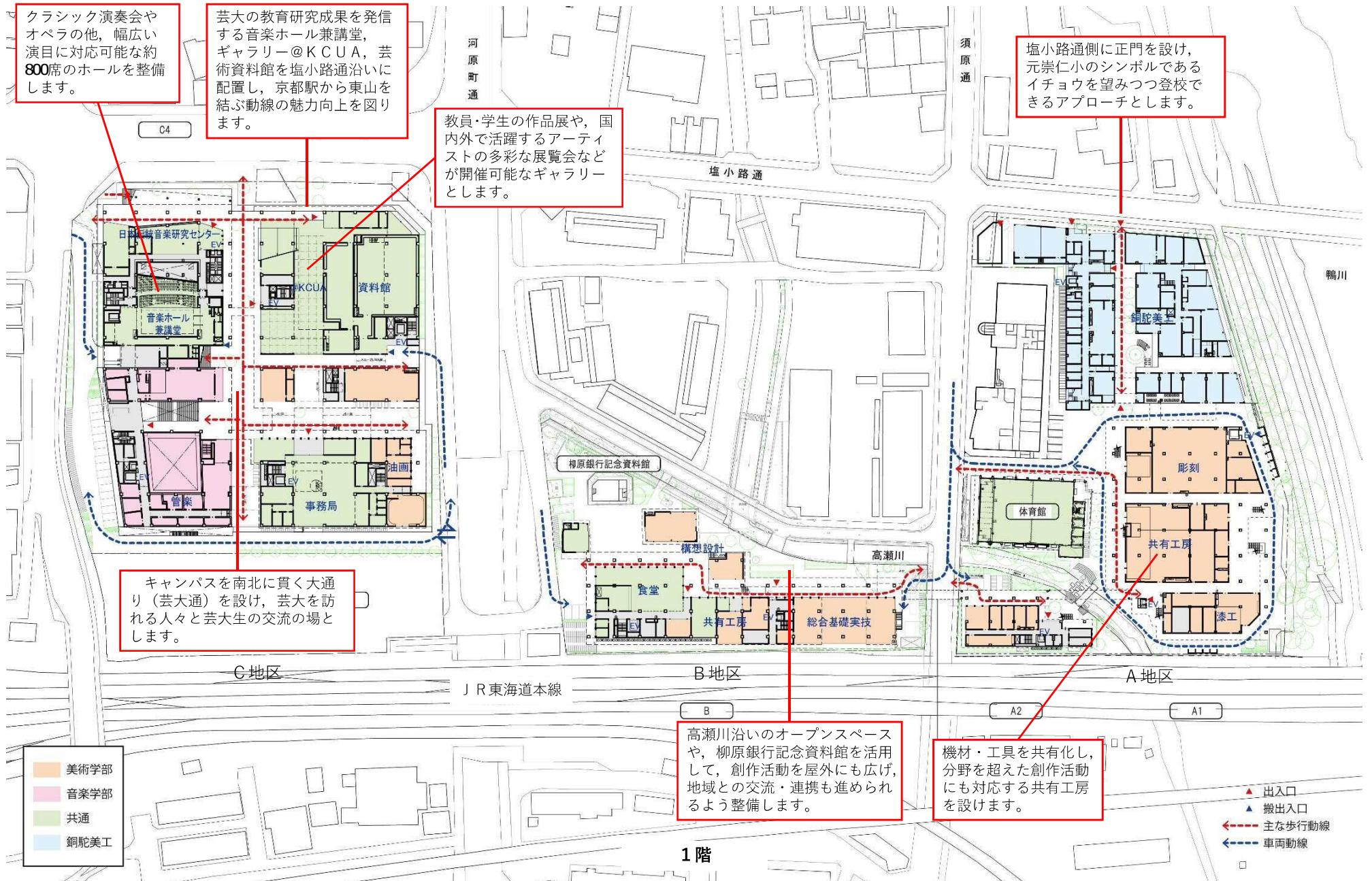
※延床面積にはテラスやピロティ等の屋外面積約9,400m²等が含まれる。

専攻配置概要

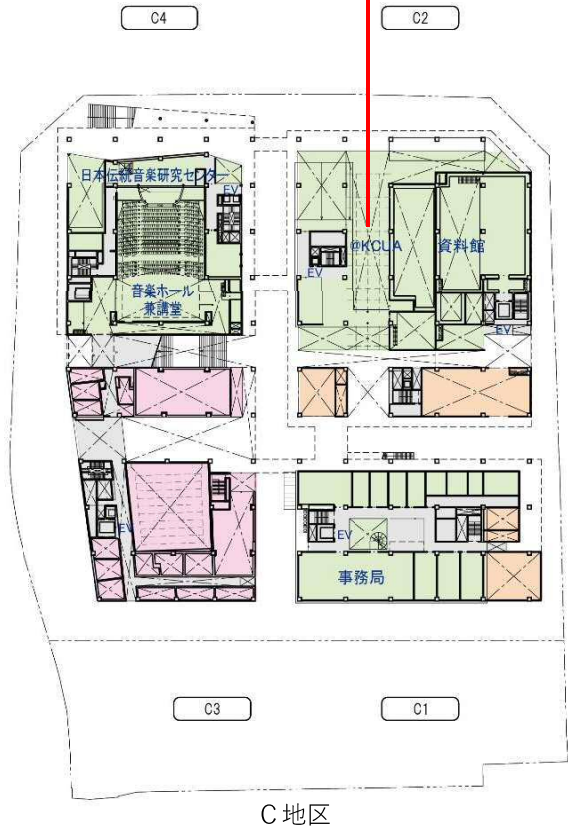


※A地区南東からの鳥瞰イメージ

2 平面計画



大きな吹き抜けの展示空間を設け、多様な使い方に対応できるギャラリーとします。



中庭を中心に、生徒が自然に交わるよう教室を配置します。

東山を望みながら生徒の交流や作品制作が可能なテラスとします。



キャンパスをつなぐ上空通路の設置を検討します。

高校と大学の連絡通路を設置し、大学内を高校生が通り、大学の制作風景に触れられるようにします。

▲ 出入口

2階

1階から続く大階段を設け、音楽ホール兼講堂や図書館への動線とします。

学生の創作活動の場ともなるテラスにより各棟を結び、京都芸大を訪れる人々との交流が生まれるようにします。

図書館は3階から5階まで吹抜けとします。

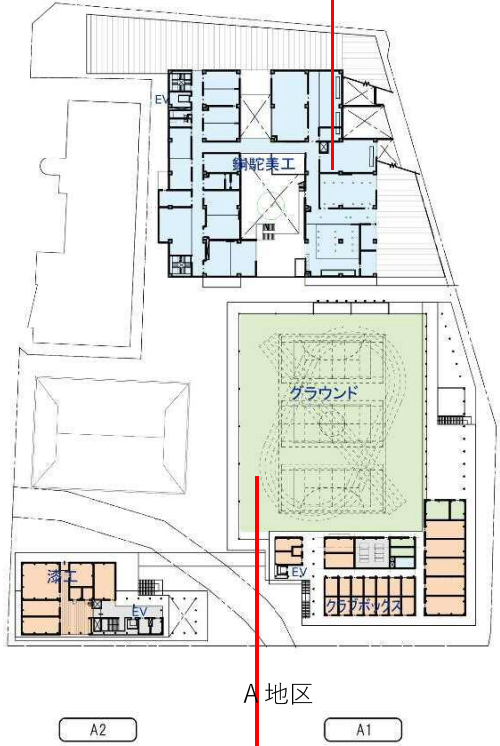
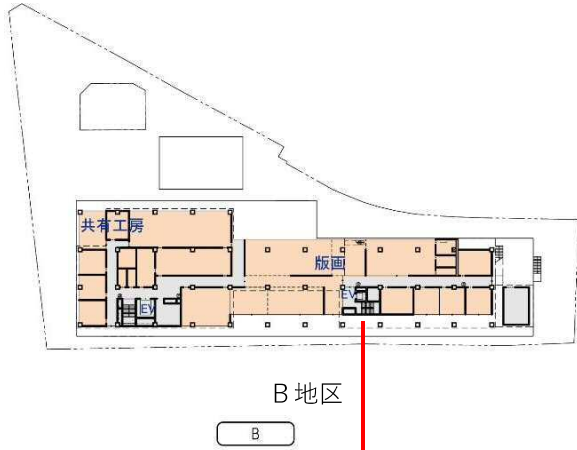
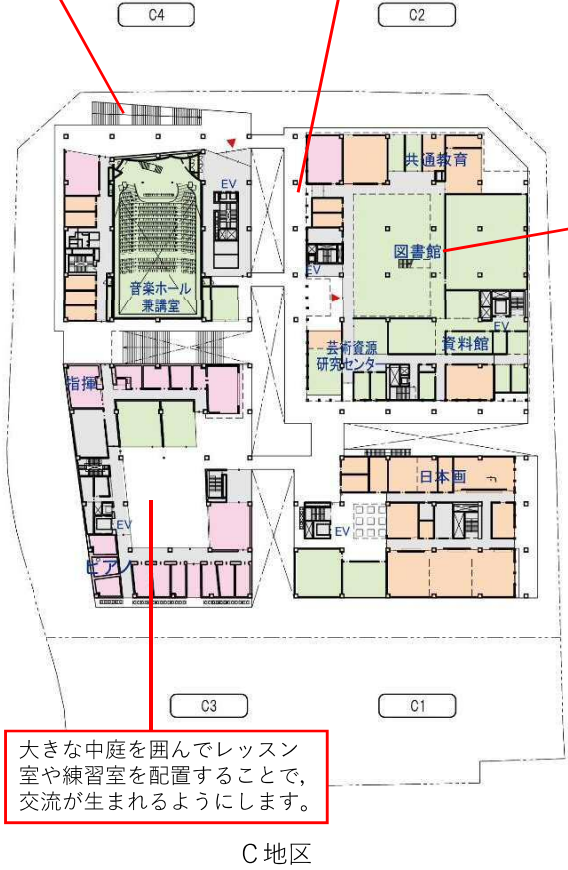
各専攻の実習室は、間仕切りを可動式にし、受講人数の変化にも対応可能とします。

大きな中庭を囲んでレッスン室や練習室を配置することで、交流が生まれるようにします。

J R側から芸大の多彩な制作活動が表れるようにデザインします。

屋上グラウンドを整備し、京都芸大・銅駝美工が共に利用できるものとします。また地域に開放された動線を確保します。

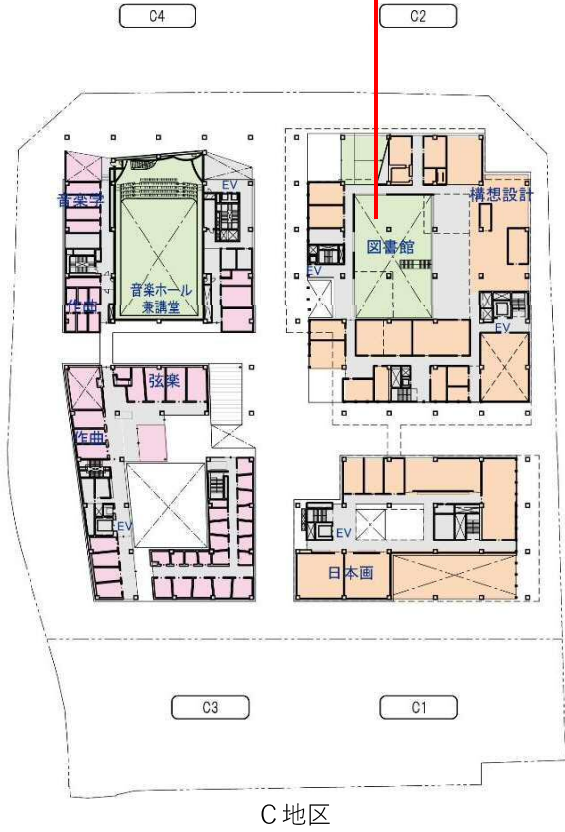
- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅駝美工



▲ 出入口

3階

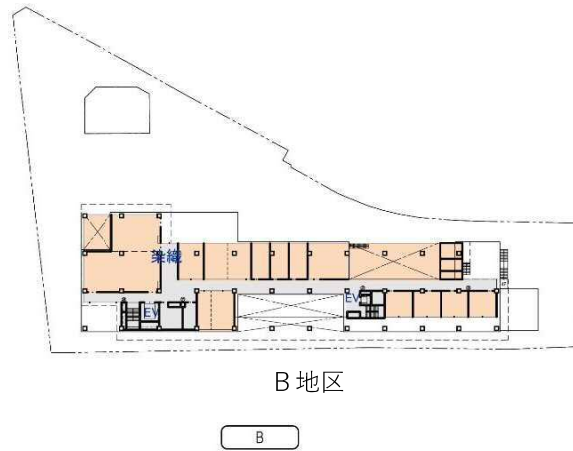
図書館の周囲を様々な専攻が取り囲み、連携のとりやすい配置とします。



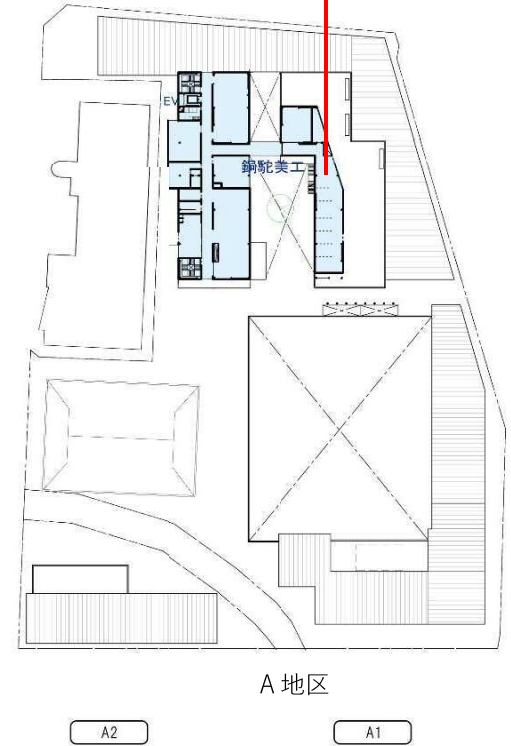
C地区



眺めの良い最上階に日本画・洋画の実習室を配置します。



B地区

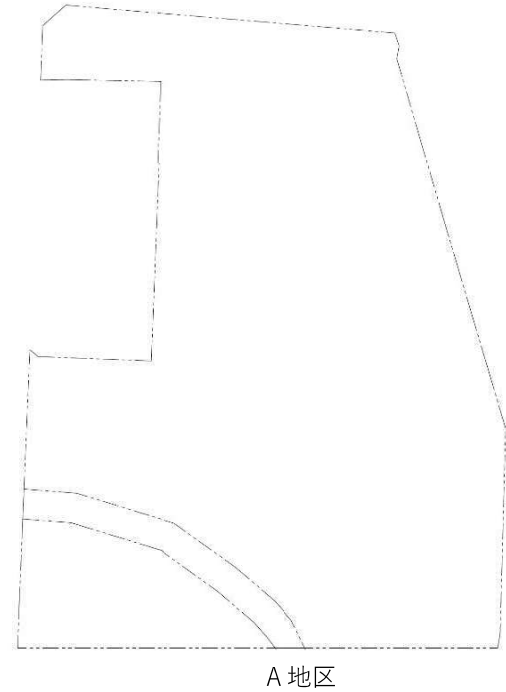
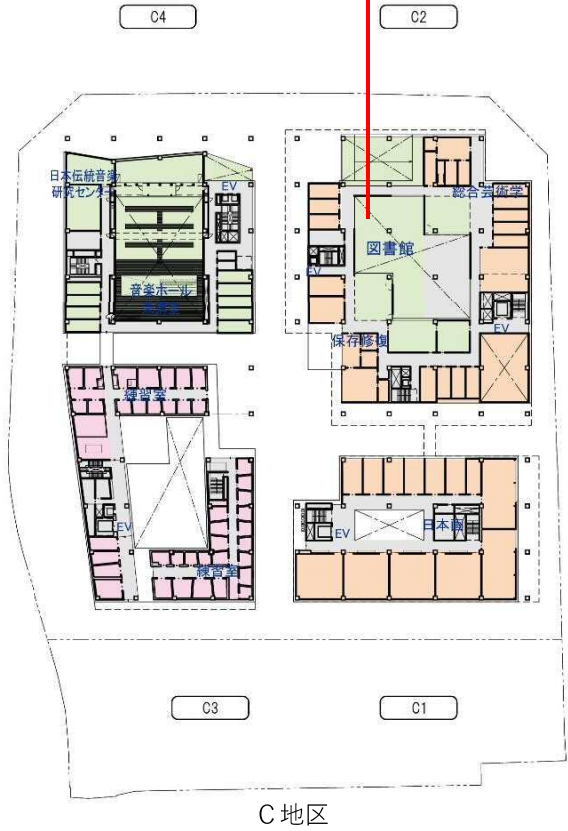


A地区

▲ 出入口

4階

図書館の周囲を様々な専攻が取り囲み、連携のとりやすい配置とします。



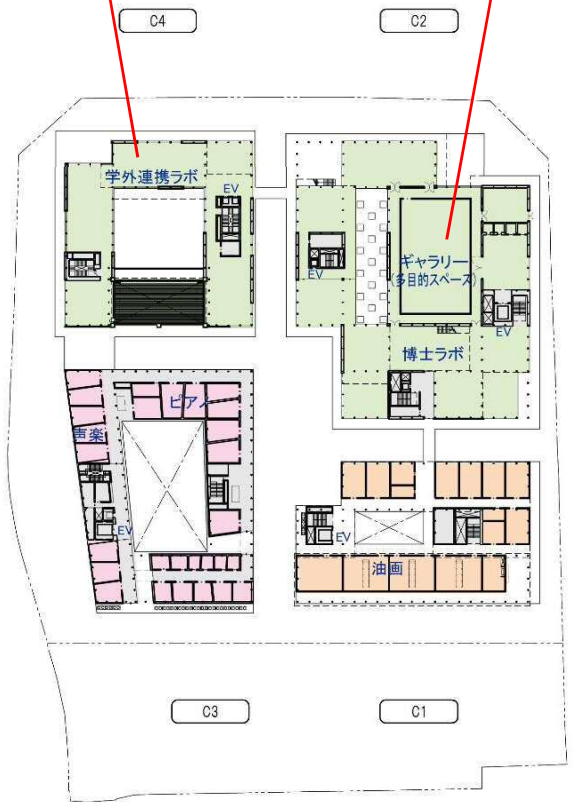
- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅舵美工

▲ 出入口

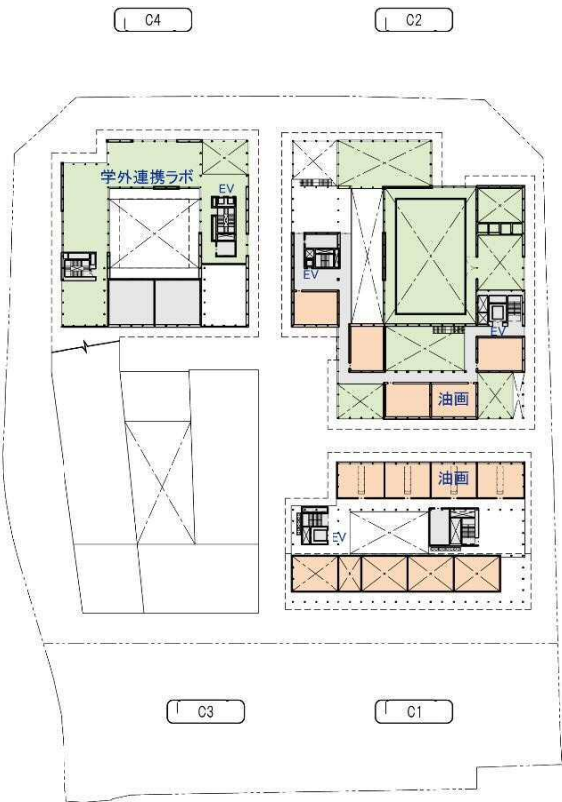
5階

京都芸大と他大学や企業等、外部との連携ができるスペースとします。

ギャラリー（多目的スペース）を眺望のよい上階にも配置し、展示だけでなくパフォーマンスなど、多彩な使い方に対応できるようにします。



C地区
6階



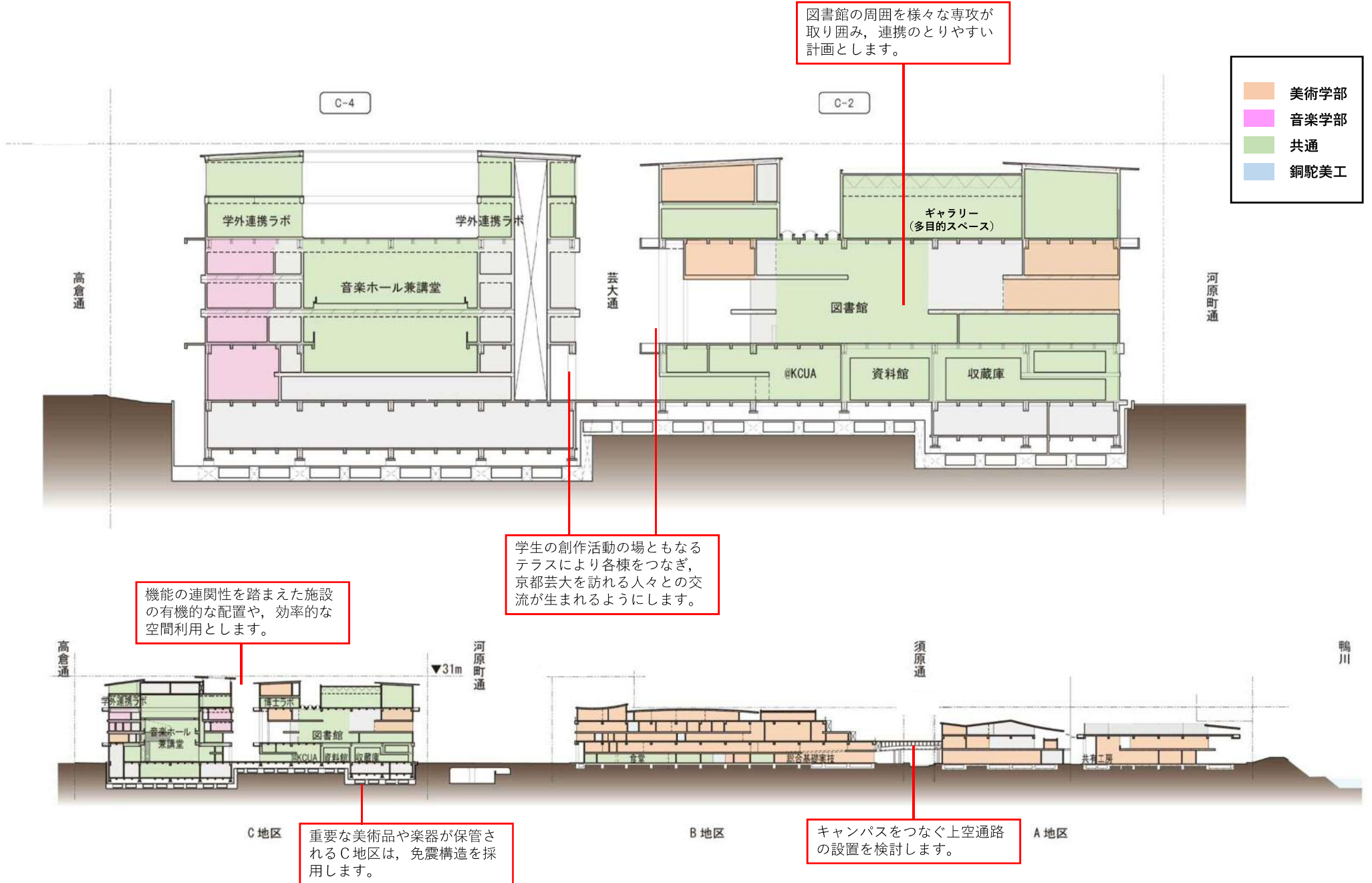
C地区
7階



C地区
地下1階

- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅駝美工

3 断面計画



4 環境への配慮, 安心・安全への配慮

○建築計画による省エネルギー化

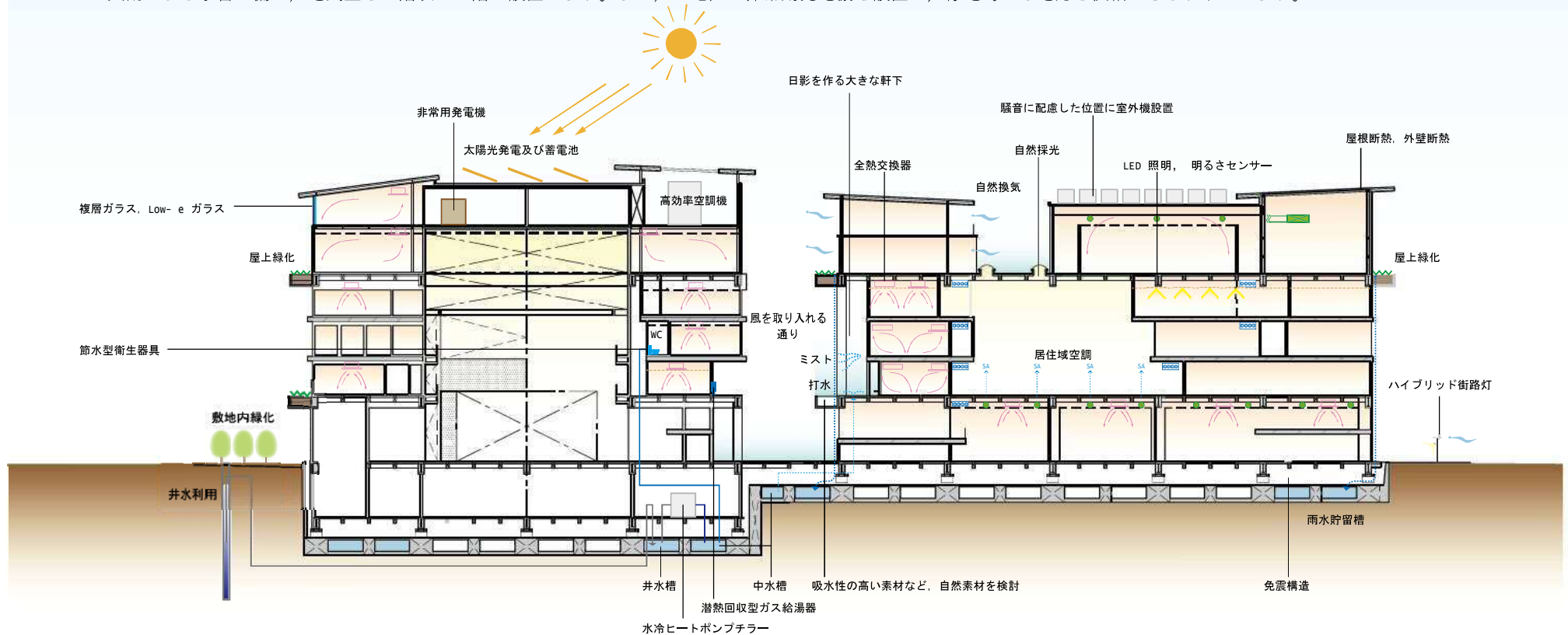
- ・大きな庇による日射の抑制, 屋根・外壁・建具の高断熱化により, エネルギー消費量の低減を図ります。
- ・吹き抜けや通りを設けることで, 建物内部まで光や風を取り入れ, できるだけ設備に頼らない, 快適な建築物を目指します。
- ・大きな屋根で集水した雨水を, 打水や散水などに活用します。

○エネルギーのベストミックスとマネジメント, 環境負荷低減の両立

- ・井水・地中熱及び太陽光等の再生可能エネルギーを活用するとともに, 熱源の分散化により, 高効率で災害に強いシステムを実現します。
- ・電力・水道・熱の消費量の見える化を行うなど, エネルギー運用の総合的なシステムを構築します。
- ・「京都市公共建築物低炭素仕様」に基づき, 京都市の建築物として求められる環境性能を満たします。

○防災活動拠点としてのキャンパス

- ・学生・教職員が安心して安全に教育研究に取り組めるよう, 十分な構造安全性やバリアフリー, セキュリティを確保したキャンパスとします。
- ・京都駅に近い立地を考慮し, 災害時の帰宅困難者が一時滞在できるスペースをC地区に確保します。
- ・元崇仁小学校が担っている避難所, 緊急避難場所としての機能を引き継ぎます。
- ・大雨による水害に備え, 電気室を2階以上の階に設置します。また, C地区に非常用発電機を設置し, 停電時にも電力を供給できるようにします。



環境配慮のイメージ

5 デザインイメージ



高倉塩小路より



塩小路通から音楽ホール兼講堂のある3階へ、スムーズにアクセスできる大階段を設けて、キャンパス内に人の流れをつくります。



河原町塩小路より



ギャラリー@KCUA（アクア）や芸術資料館を1階に配置し、塩小路通沿いにおいて大学の芸術活動を発信すると共に、京都駅から東山へ至る動線の魅力向上を図ります。



鴨川より



鴨川に沿って流れるように屋根をかけ、銅駝美工と京都芸大を一体感のあるデザインとします。また、キャンパスと鴨川がつながるようにデザインし、自然に親しみながら創作活動ができるようにします。



高瀬川をのぞむ



高瀬川沿いは、屋外スペースや高瀬川も活用しながら、柳原銀行記念資料館や地域と連携した創作活動が行われるような親水空間をつくっていきます。
 また、制作中の作品や創作活動が外から見えるような、開放的なデザインとします。



C地区3階テラスより



キャンパスを南北に貫く大通り（芸大通）や、中高層階の大きなテラスが芸術活動の場になるとともに、芸大を訪れる人々と芸大生の交流の場となり、都市の中の大学の新しいあり方を表現していきます。



塩小路橋より（銅駝美工をのぞむ）



全国屈指の美術専門高校である「銅駝美術工芸高校」を移転します。鴨川に面し、京都の四季折々の風情を感じることができる恵まれた環境のもと、生徒たちは日々、勉学や創作活動に励みます。



大学図書館



図書館の吹抜けに面して講義室などを配置し、図書館から講義室の授業風景が見えたり、講義室から図書館が眺められるようにします。
また4階には、図書館と一体となったラーニングスペースを設けます。



音楽ホール兼講堂



クラシック演奏会やオペラの他、幅広い演目に対応可能な約800席の音楽ホールを整備します。